

熊本市における路面電車の位置づけ、取り組み

熊本

熊本市 副市長 多野 春光

2018年1月12日

新しく生きよう。

NEO ONE
KUMAMOTO

2017/12/15



- 平成28年4月14日(木) 21時26分
- 平成28年4月16日(土) 1時25分

前震発生 M6.5 震度7
 本震発生 M7.3 震度7

<被災状況>



橋梁部の段差



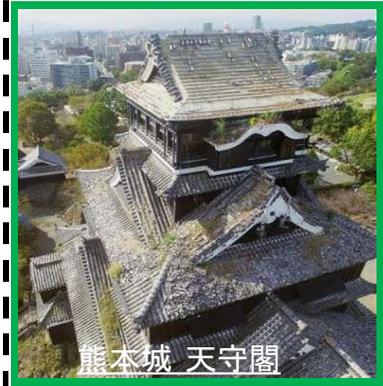
橋梁部の破損



建物倒壊



擁壁崩壊



熊本城 天守閣



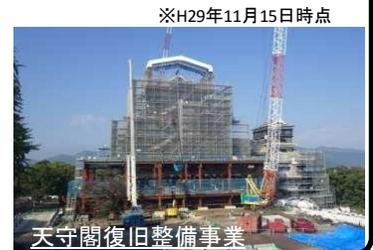
熊本城 飯田丸五階櫓

<復旧の状況>

- 道路、河川、公園平成30年度完了予定*
- 仮設住宅等の提供:10,000戸以上*
- 熊本城本格復旧は20年以上
 復興見学ルートを設定



積み直し工事を待つ石材



※H29年11月15日時点

天守閣復旧整備事業

「復興元年」
平成29年度

～市民力・地域力・行政力を結集し
 安全・安心な熊本の再生と創造～

【共同】ポ「熊本城」復旧プロジェクト
 →平成32年度末までに天守閣を復旧予定

○激しい自動車渋滞の中、市民や災害ボランティア等の移動を支え、災害時における市民生活や復旧活動に貢献。

市電施設の被害状況

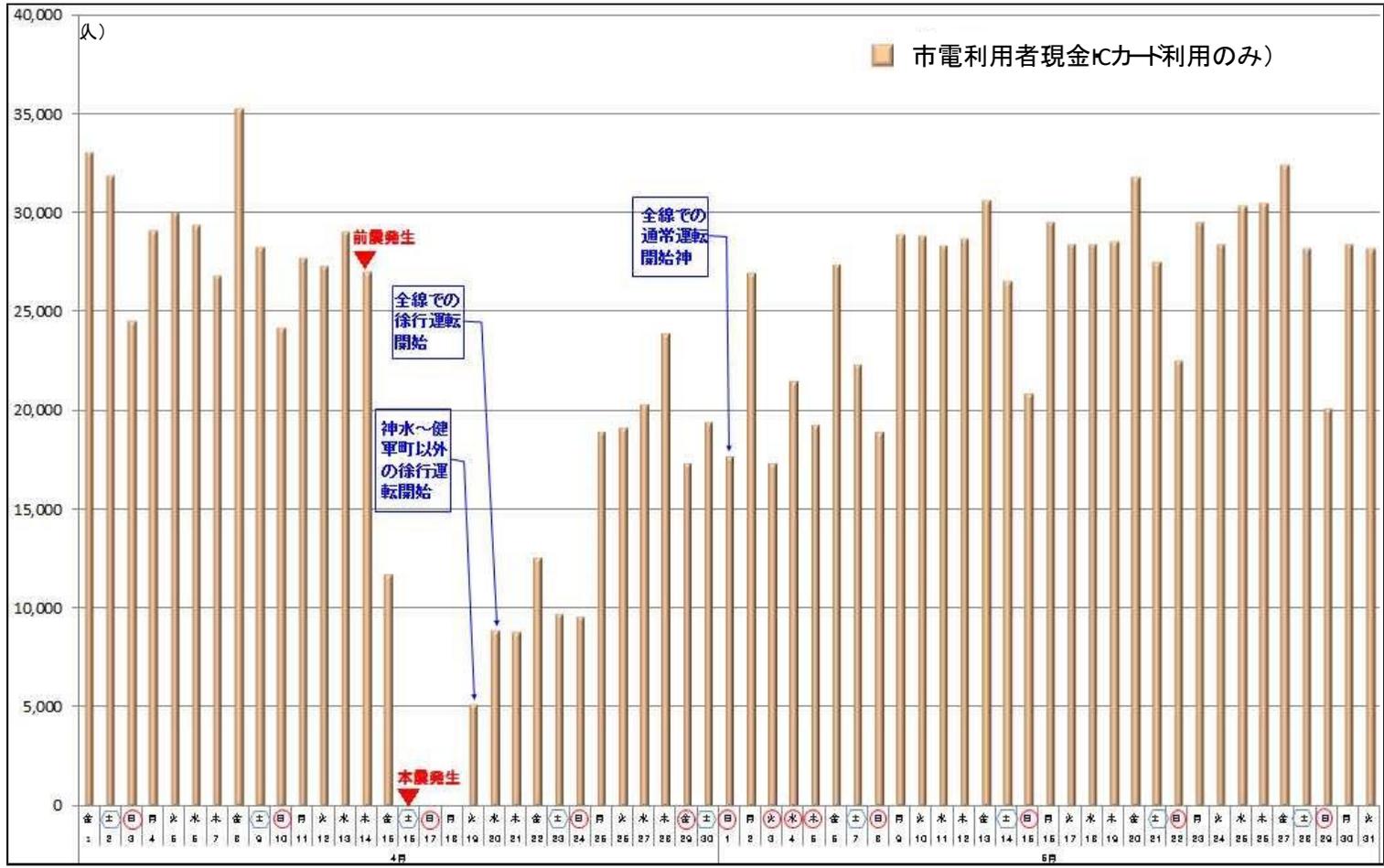
全線で10箇所以上の被害が発生



▲軌道沈下



▲レール破断



▲震災前後の利用者状況

基幹公共交通(鉄道、市電、幹線バス)の強化

中心市街地と15の地域拠点をつなぐ8軸を「基幹公共交通軸」と位置づけ、輸送力、速達性、定時性の強化を図る。



▲超低床電車 熊本市交通局



▲連節バス(岐阜バス)

公共交通空白・不便地域への対応

地域と協働で「コミュニティ交通」の導入を進め、公共交通の空白・不便地域の解消を目指す。



▲乗合タクシー



日常生活を支えるバス路線網の再編

基幹公共交通を補うバス路線網を再編し、わかりやすく効率的な運行体制を確立する。



▲バス専用レーン(国道3号)

凡例	
	中心市街地
	地域拠点
	基幹公共交通軸
	幹線バス
	環状線バス
	その他の路線バス等
	支線バス
	コミュニティバス
	メインターミナル交通センター
	サブターミナル 熊本駅
	乗継ポイント
	公共交通空白・不便地域
	新幹線
	JR
	熊本電鉄
	市電

基幹公共交通（鉄道、市電、幹線バス）の強化

中心市街地と15の地域拠点をつなぐ8軸を「基幹公共交通軸」と位置づけ、輸送力、速達性、定時性の強化を図る。

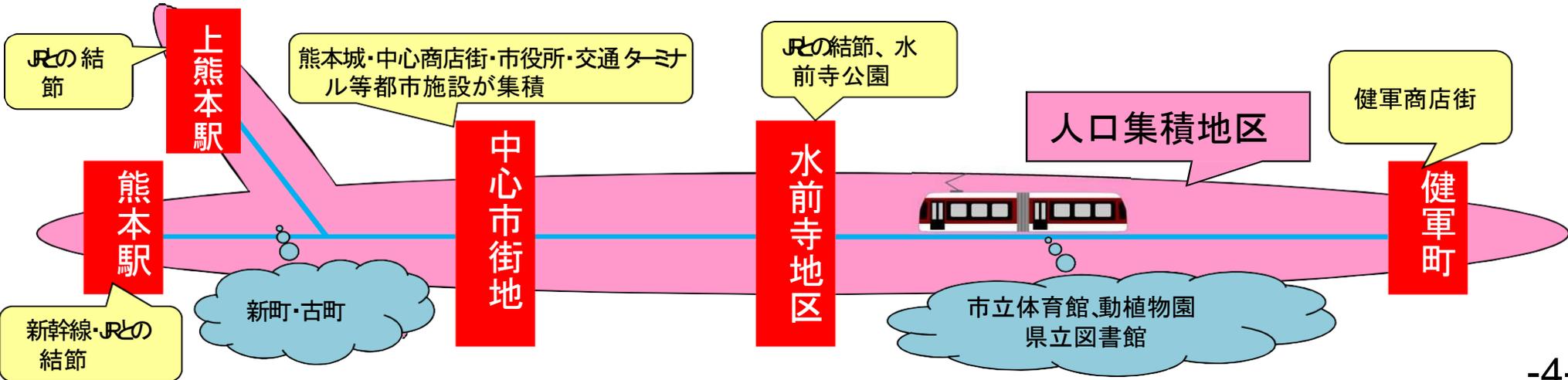
方針

輸送力・定時性・速達性の比較

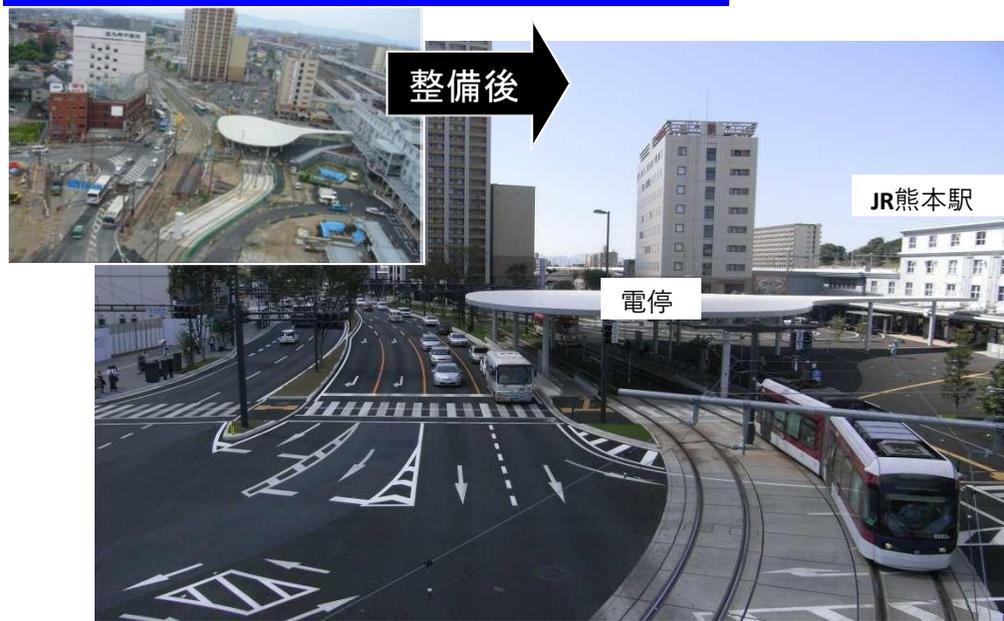


まずは、**鉄道・軌道（市電）**の既存ストックの有効活用について検討する。

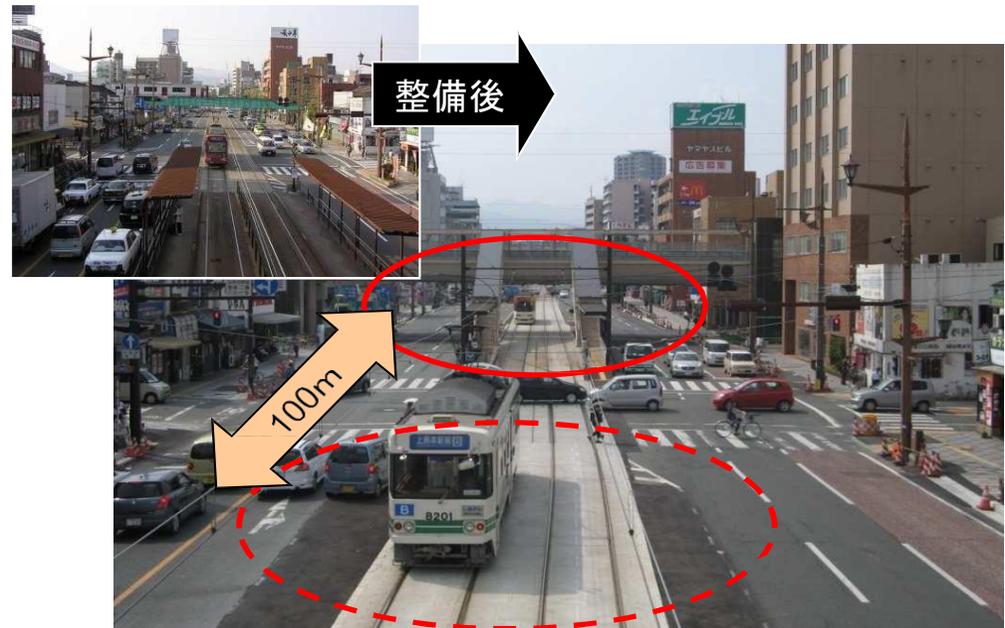
軌道(市電)軸の特徴



交通結節点改善



▲JR熊本駅前の軌道敷のサイドリザベーション化



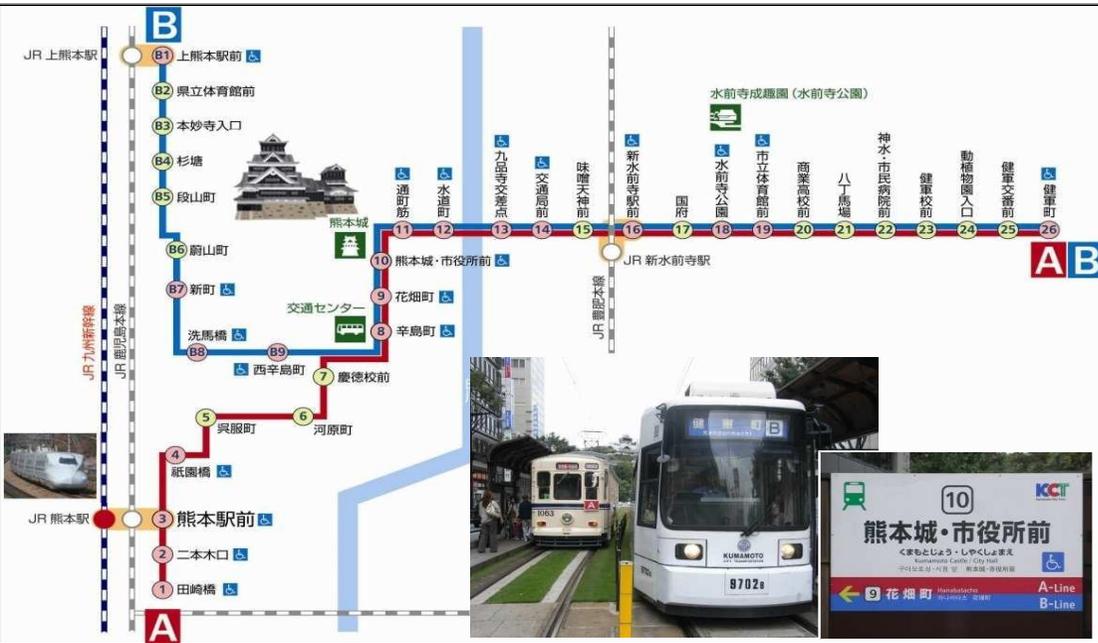
▲JR新水前寺駅と電停の結節

路面電車優先信号システム (PTPS)



◇熊本駅～辛島町上 22km
 熊本駅～辛島町 29km
 約0.3km(は重複区間)
 ※軌道全延長:121km

運行系統名称の変更と色分け

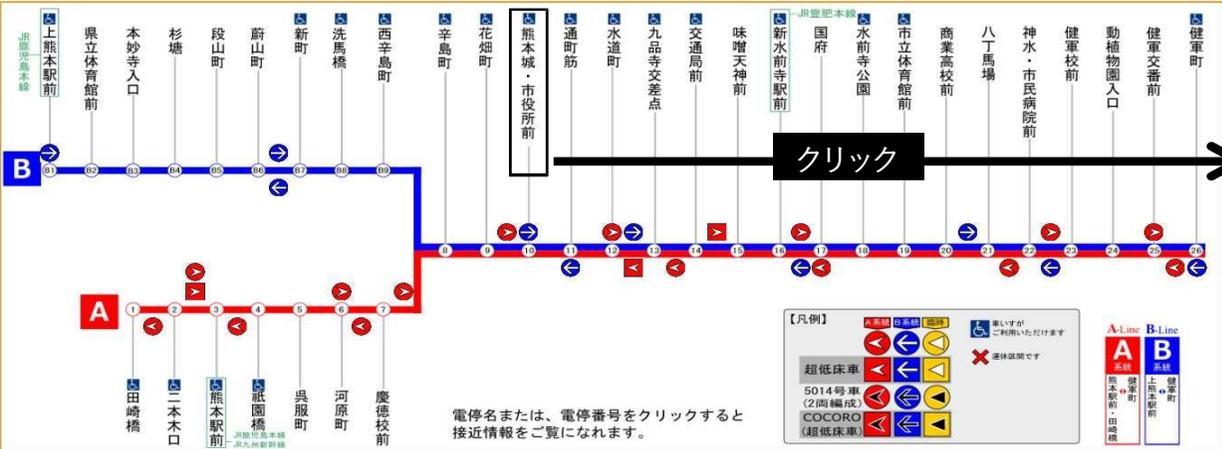


全国相互利用カードの導入



全国相互利用カードが熊本市電で利用可能!

市電ロケーションシステム(熊本市電ナビ)



⑩ 熊本城・市役所前

田嶋橋・熊本駅前方面/上熊本駅前方面			健軍町方面		
到着順	系統	行き先	現在地	到着予定時間	車両情報
1	B	上熊本駅前	通町筋	まもなく到着します。	
2	A	田嶋橋	2電停前の水道町	あと8分	超低床車
3	A	田嶋橋		あと11分	
4	B	上熊本駅前		あと20分	

- ◇携帯電話やパソコンから確認可能。
- ◇主要電停にモニターを設置(H29年度)

低床車両の導入

平成26年10月 新型車両0800型

COCORO を導入



▲ 新型車両0800型



▲ メープル材を使用し内装



▲ ウォールナット材を使用し内装

◇水戸岡 鋭治氏のデザイン熊本市の歴史文化を感じる懐かしくて新しい、伝統と誇りを表現)

◇COCORO = 思いやりの心おもてなしの心」

電停改良(バリアフリー化)



▲ 熊本城市役所前電停



▲ 田崎橋電停

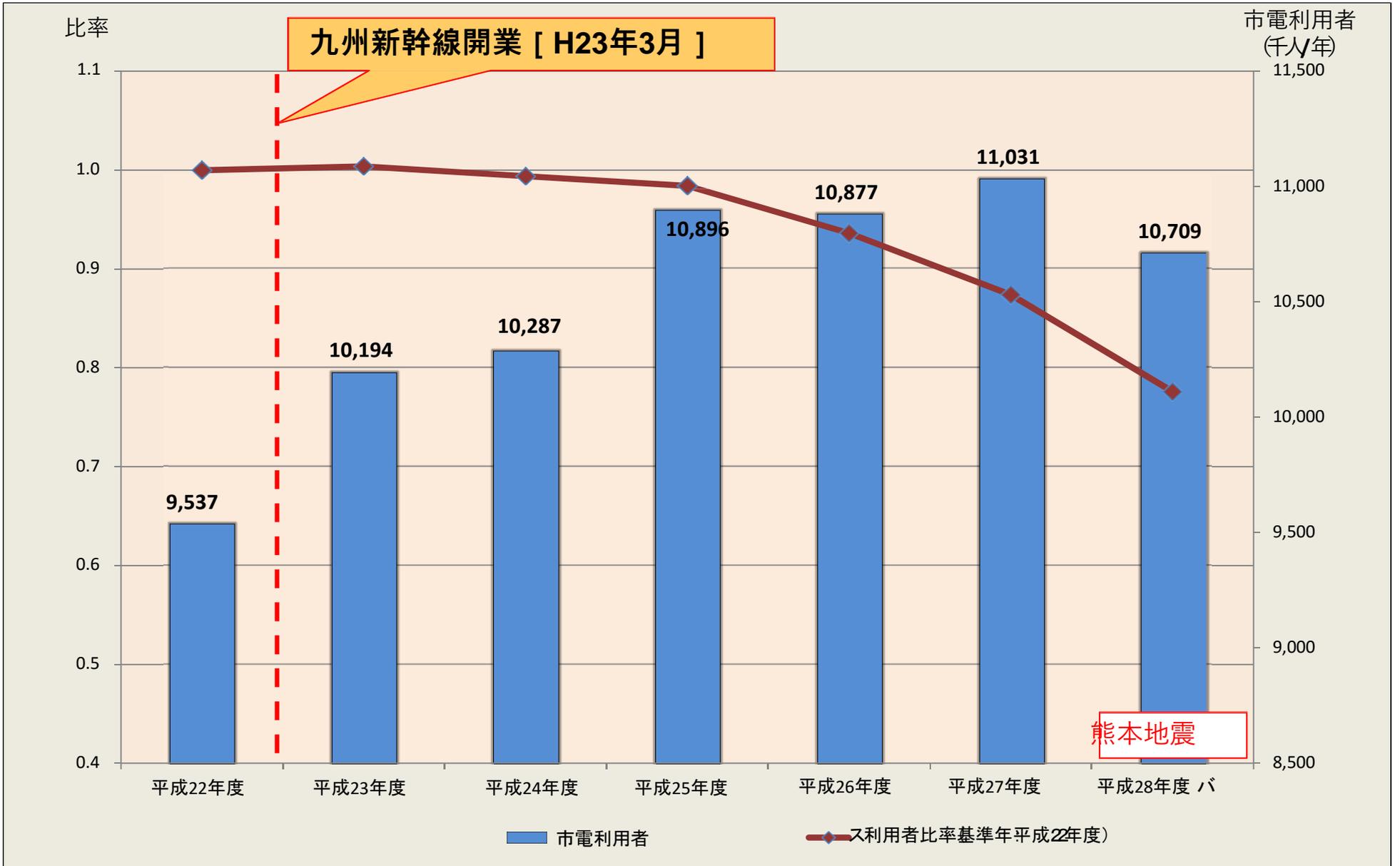
◇電停改良整備計画

2010年に整備計画策定

バリアフリー対応

優先順位に応じて改良を推

進



▲ 熊本市電の乗車人員の推移と市電利用者比率

自衛隊ルート概要



◇整備形態効果等

項目	結果
延長	約1.5km
軌道	複線
利用者見込み	約58万人/年
新規公共交通利用者見込み	約45万人/年

移動手段の多重化等、災害に強い都市基盤の形成の観点からも市電延伸の検討は要



ご清聴、ありがとうございました

